(校長室だより)



平成27年2月3日 NO. 5

発行 校長 本城 学

頑張ろう ロードレース大会



- 鴻陵行事の由来を知り、襷をつなぐ(I) -

「ロードレース大会、なくしてほしい」 昨年暮れの学校評価になったで、行っと関したで、なる自由記述には、このはとのはといるでながでなりました。一方でながなりました。で、はなりまるではないまでない。でないではないではないであいとが、があいと思います。といます。

ロードレース大会

今年第66回を数えるロードレース大会は、 昭和24年に「校内耐寒マラソン大会」として 始まりました。陸上競技部が行っていた江戸川 −周の元旦マラソン(学校→松戸・葛飾橋→市 川橋→学校)の取り組みがきっかけでした。目 的はもちろん、体力と精神力の強化です。総合 優勝クラスに贈られる「黒羽杯」は、当時の陸 上部顧問・黒羽義治先生の名から来ています。 ちなみに、陸上部の元旦マラソンは、市川市に も影響を与え、本校開始の翌年の昭和25年に 市の行事「市川市民元旦マラソン」を生み出し ています。市内での鴻陵生の存在の大きさを思 い、誇りを感じるエピソードです。ともかくも こうして始まった大会。名前を「ロードレース 大会」と変え、全学年の行事から1、2年生行 事に移行し、個人盾は2連覇(1、2年連続優 勝) 生徒の名を冠するようになりました。そう して66年。何十年も経過し周辺の建物風景は 様変わりしていても、その間を流れる江戸川は 今も悠然と流れ続けます。そして、交通事情の 変化でコースこそ変わりましたが、若鮎のよう な鴻陵生は、江戸川堤の寒風を切り裂いて、昔 も今も走り続けているのです。これも伝統であ り、校風の一端です。今年はPTAの皆さんが、 走り終えた生徒に温かい飲み物を用意して応援 してくださるそうです。楽しみです。ドリカム

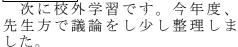


の中村正人さんも、作家の真保裕 一さんや乙川優三郎さんも、俳優 のきたろうさんや伊藤淳史久保 も、そして現市川市長の大久保 きんも、先輩たちもみんな走り、 した。皆さんがその同じ道を、 を赤く染めながら走る姿は、個人

個人の頑張る姿でありながら、伝統の縦糸で見

た時、「鴻陵魂」の襷をつないでいるように感じます。大会では、スターターの仕事を果たしたら、私も同じように走って、伝統の襷を担いたいと思っています。気持ちよく頑張りましょう。 (天気がちょっと心配ですが..)

校外学習



遊山」の要素が強まっていると 言う議論が起きました。また、 たくさんある校外学習全体のて、 ランスを取る必要性も生じて、 修学旅行を一度廃止し、昭和5 2年から名称を「校外学習」と

